

小学校第3学年 国語科

旭川市立向陵小学校

上野真吾

求められる資質と能力を 育む指導と評価

①単元における 評価計画

研究内容 (3)

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の位置付け

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	<p>◎本から知識を得た経験を想起したり、科学的な内容を扱った本の読み方を知ったりして、学習の見通しをもつことができる。</p> <p>主体的な学び</p> <p>◎本を読んで知識を得た経験を思い出し、交流する。</p> <p>◎単元のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。</p> <p>【単元のめあて】</p> <p>本を読んで、はじめて知ったことを友達と伝え合おう。</p> <p>◎図鑑や科学読み物などの本や、その読み方について知る。</p> <p>◎本を選んで読むときの視点を確認する。</p> <p>◎友達と伝え合うときの視点を確認する。</p> <p>◎本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ※振り返りシート</p>	<p>指導 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・図鑑や科学読み物などの本を読むことが、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 <p>指導の手立て</p> <p>児童に分かりやすい内容の本を例示し、初めて分かったことを紹介し合う。</p>	<p>思・判・表</p>	<p>記録 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 自分の読書生活を振り返って単元のめあてを理解し、これからの学習に見通しをもっている。
2	<p>◎文章の内容を理解し、感想をもつ。</p> <p>◎課題の把握</p> <p>「鳥になったきょうりゅうの話」を読み、文の組み立てや内容を理解しよう。</p> <p>◎教師の範読を聞く。</p> <p>◎挿絵に見出しを付けながら、内容を把握する。</p> <p>◎自分の感想をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥になったきょうりゅうの話」を詳しく読むことができた。 ・きょうりゅうについて心に残ったことは○○だ。 <p>◎本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ※振り返りシート</p>	<p>指導 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・観察 <p>積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って、本を読んで驚いたり感心したりしたことを見つけようとしている。</p> <p>指導の手立て</p> <p>好きなこと、知りたいことなど、興味のあることは何かを対話しながら確認し、読みやすい簡単な本と一緒に探す。</p>	<p>思・判・表</p>	<p>◎初めて知ることなどに着目して文章を深く読んで感じたことを共有して、一人一人の感想を聞き取りたいことがあることに気付くことができる。</p> <p>対話的な学び</p> <p>◎課題を把握する。</p> <p>「鳥になったきょうりゅうの話」で「心に残ったこと」を交流しよう。</p> <p>◎挿絵を基に、心に残ったことを整理する。</p> <p>◎心に残ったことを交流する。</p> <p>心に残ったことは、人それぞれ違うね。同じ文なのに、いろいろな感じ方がある面白。</p> <p>◎本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ※振り返りシート</p>
3	<p>◎初めて知ることなどに着目して文章を深く読んで感じたことを共有して、一人一人の感想を聞き取りたいことがあることに気付くことができる。</p> <p>対話的な学び</p> <p>◎課題を把握する。</p> <p>「鳥になったきょうりゅうの話」で「心に残ったこと」を交流しよう。</p> <p>◎挿絵を基に、心に残ったことを整理する。</p> <p>◎心に残ったことを交流する。</p> <p>心に残ったことは、人それぞれ違うね。同じ文なのに、いろいろな感じ方がある面白。</p> <p>◎本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ※振り返りシート</p>	<p>指導 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 共通の本を読んで、感じたことや分かったことを共有して、一人一人感じ方に違いがあることに気付くことができる。 <p>指導の手立て</p> <p>「きょうりゅう」のイメージを確認する。どの文章が心に残ったか、場面ごとに挿絵と照らし合わせながら一緒に読んでいく。</p>	<p>思・判・表</p>	<p>◎初めて知ることなどに着目して文章を深く読んで感じたことを共有して、一人一人の感想を聞き取りたいことがあることに気付くことができる。</p> <p>対話的な学び</p> <p>◎課題を把握する。</p> <p>「鳥になったきょうりゅうの話」で「心に残ったこと」を交流しよう。</p> <p>◎挿絵を基に、心に残ったことを整理する。</p> <p>◎心に残ったことを交流する。</p> <p>心に残ったことは、人それぞれ違うね。同じ文なのに、いろいろな感じ方がある面白。</p> <p>◎本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ※振り返りシート</p>

変容や調整力を見取るために、単元の導入で「記録に残す評価」を行う

指導の改善「指導に生かす評価」

指導 ①

- ・ワークシート
- 共通の本を読んで、感じたことや分かったことを共有して、一人一人感じ方に違いがあることに気付くことができる。

指導の手立て

板書の心に残った場面の位置や感想、その理由を一緒に確認しながら、みんな心に残ったところが同じだったか確認させる。

指導 ②

- ・ワークシート
- ・観察

積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って、本を読んで驚いたり感心したりしたことを見つけようとしている。

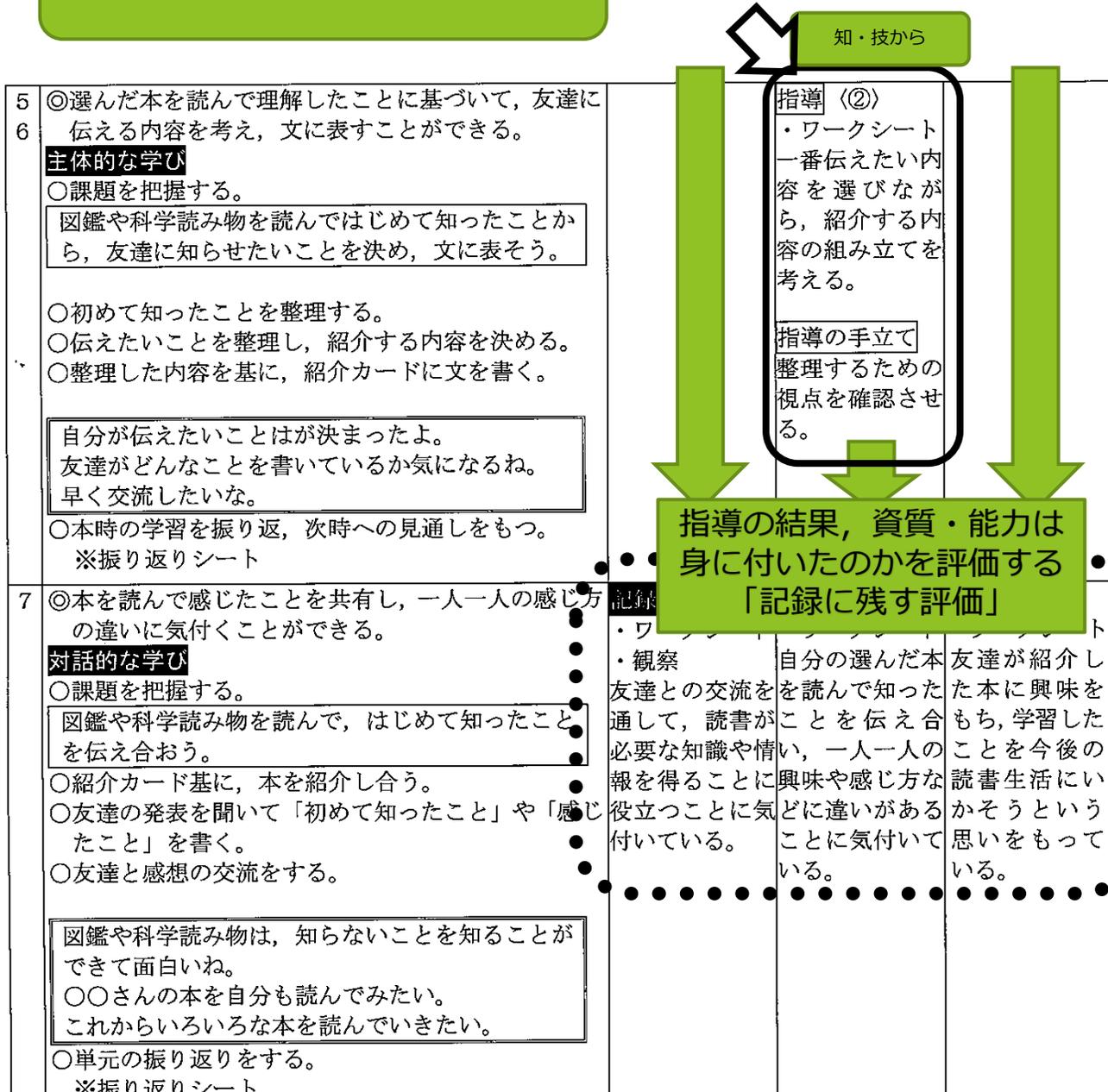
指導の手立て

好きなこと、知りたいことなど、興味のあることは何かを対話しながら確認し、読みやすい簡単な本と一緒に探す。

思・判・表へ

研究内容 (3)

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の位置付け



◆単元を通して、児童の意識に沿って思考が連続する過程を重視した単元配列とし、1単位時間ごとに身に付けさせたい資質・能力を考えた評価の観点を段階的・意図的に組み入れた。「本を読むと知識や情報を得ることができる」という知識・技能の評価を先に、そして「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く」という思考・判断・表現の評価という順序で行った。身に付けた知識及び技能等を生かしながら、思考力、判断力、表現力等を身に付け、またその力を生かして知識及び技能等を身に付けていき、ねらいの達成へと指導を改善しながら学習を展開していった。

◆主体的に取り組む態度については、単元の導入と終末に「記録に残す評価」を位置付け、児童の変容や調整力を見取ることとした。

研究内容（3）

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の位置付け

「思考・判断・表現」

③

ワークシート①～③は、同じ児童のものである。
3時間目では、「自分と同じ場面と理由の人が一人しかいないこと。」という気づきが、7時間目には「同じ本を選んだ友達でも**思ったことはぜんぜんちがいました。**」と、感じたことの内容に着目して、一人一人感じ方に違いがあることへの気づきが高まっていることが分かる。3時間目の「共通の本について心に残ったことを交流する」という学習活動において、指導の手立てをとり、次時へつないでいった。7時間目において、「自分の選んだ本について心に残ったことを交流する」という学習活動を行う際に、児童は3時間目から6時間目までに身に付けたことを生かすことができた。3時間目の指導に生かす評価の成果と考える。
さらに、どこで、何をどのように指導するかを明確にした指導計画の作成により、単元の振り返りの際にも、児童が「一人一人の感じ方などには違いがあることに気付く。」という目標を達成させることができたと考える。

今回新しくわかったことは、友だちは、いろいろなこと言っていて、同じことを言っていた人は一人もいないことになりました。楽しかったことは、みんなの知ったことがわかって楽しかったです。

今回も毎日がんばれたと思います。

7時間目
(単元の振り返り)

同じ本を選んだ友達でも、思ったことはぜんぜんちがいました。自分と同じ本を言っていた、子の言っていたことは、わたくしも知りませんでした。

②

3時間目
(本時)

自分と同じ場面と理由の人が一人しかいないことについて、少しびっくりしました。友だちは、はじめて知ったことを聞いてみんからは自分のはじめて知ったことを知っていたのか、それと全然知らなくても発表してはなかったのか、

①

7時間目
(紹介カードの交流後)

研究内容（3）

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の位置付け

「知識・技能」

1時間目には、「子供たちにとって身近なものであるが、知らないことがある内容の本」を紹介し、図鑑や科学的読み物などの本に興味をもたせた。そして、「本を読むと知らなかったことが分かる。」という、本を読むことのよさに気付くような問い掛けや交流をして、児童が考えたことや思ったことを取り上げていった。また、主体的に学習に取り組む態度の評価とも関連させ、「本を読むと知らなかったことが分かる。」から「本をもっと読んでいきたい。」「知りたい。」と、これからどのような学習をしていきたいか学習の見通しをもち、学習に主体的に取り組んでいけるように評価の位置付けを行った。

7時間目
(単元の振り返り)

①本を、えんぴつで心にのこしたことをはっぴょうする。
本でしらべたりいろいろしる

7時間目
(紹介カードの交流後)

みんながしらべた本をしょうが好なか
かがわかった。しらべかけたことか
れそうかしかつた。

1時間目
(振り返り)

へいじのことがしれてよかかった
たす。

学習計画を立てて感じたことと書翰交換。
たもっしりしたいし、キョウリウのことせりりま
し

②本時における 見取り方とその判断

研究内容（4）

「観点ごとの総括」

本時の評価の視点

本時の評価を行うにあたり、点線で囲まれた学習活動の際に、本時の目標を達成させることができているかどうかを見取りながら、手立て【支援1】～【支援4】を講じて授業を進めた。

そして、評価場面において、特に、手立て【支援3】を丁寧に講じた。

2 課題設定をする

本時の学習の課題を確かめる。

心に残ったことを友達と伝え合おう。

3 発表の方法を説明する。

- (1) おおよそ挿絵毎に、前に出てきて、前前の書かれた付箋を本文に貼る。
- (2) 「心に残ったこと」を発表する。
- (3) 「同じ感じ方」「違う感じ方」があれば、ワークシートに書く。

- 【支援1】本時の活動が大きく分けて2つあることを確認する。
- ①心に残ったところを伝え合うということ。
- ②友達と比べて「同じ感じ方」や「違う感じ方」を見付ける作業があるということ。

4 全体交流

「選んだ場面が同じなのに、感じ方が違う人がいるよ。理由を聞いてみましょう。自分の感想を黒板に貼ろう」
「みんなと全然違うところを選んだ人がいるよ。どうしてかな」

- 指名されたら、付箋を貼り、「心に残ったところ」を答える。
- 「木に飛び移ったのがすごいと思いました。」
- 聞いている児童は、自分と異なる感じ方の子を見つけ、名前をメモする。

5 振り返りを書かせる。

心の残ったことは、人それぞれ違うね。
同じ文なのに、いろいろな感じ方があって面白い。

- 【支援2】「同じ感じ方」や「違う感じ方」に気付いているか、声を掛けて確認し、あてはまる場合は、書くように促す。

研究内容（４）

「観点ごとの総括」

本時の評価の視点

評価場面では、児童の発表を交流しやすくするために、同じ場面での感想や考えの違い、同じ感想なのに場面が違うことなど、**比較して考えやすい**児童の発表を取り上げた。

5 振り返りを書かせる。

心の残ったことは、人それぞれ違うね。
同じ文なのに、いろいろな感じ方があって面白い。

スクリューしているが、戸を掛けて確認し、め
てはまる場合は、書くように促す。

【支援3】

- ①振り返りの際に、みんなが発表した意見は同じだったのかどうか聞き、感じ方の違いに気付かせる。
- ②板書を一緒に見ながら、みんな心に残ったところが同じだったか確認させる。

7 次の時間の内容を確認する。

指導に生かす評価指導に生かす評価

【評価場面】・ワークシート
考えや感じたことを共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

<手立て>

- ①振り返りの際に、みんなが発表した意見は同じだったのかどうか聞き、感じ方の違いに気付かせる。
- ②板書を一緒に見ながら、みんな心に残ったところが同じだったか確認させる。
- ③授業後に、ワークシートを一緒に見ながら、友達と心に残ったところが同じだったからどうか確認する。

③ 『成果と課題』

【成果】

- 身に付けさせたい資質・能力を基に単元の指導計画と評価計画を作成することにより、指導と評価の視点が明確になった。
 - 例えば、科学読み物に対する興味が高まり、単元終了後の読書活動において、科学読み物を図書館で借りる児童が増えた。これは、単元の学習を通して、読書の幅を広げることができたと言える。
- 指導に生かす評価と記録に残す評価を行うことで、児童の実態を把握し、指導計画の改善や変更をすることができ、適切に資質・能力を育ていける学習展開とすることができた。
- 目標達成に向けて、評価の視点を明確にすることで、手立てを準備し、授業に臨むことができた。
 - 例えば、「一人一人の感じ方の違い」に気付くことができていない児童には、ワークシートに着目させたり、対話をしたりしてすぐに指導に生かすことができた。

【課題】

○評価をする際に使用するワークシートの内容の吟味や工夫

→思考・判断・表現の評価は、ワークシートを活用しておおむね十分にできたが、知識・技能や主体的に学習に取り組む態度を評価する際の場面や方法が不十分であった。

児童に投げかける発問やワークシートに書かせる内容、教師が見取るための場面や具体的な設定がより必要である。

○目標と評価の視点の整合性

→単元を通した評価計画を立てる際に、一単位時間において目標が達成できるように、本時の目指す児童の姿を明確にし、具体的な手立てをより綿密に計画することで、適切な評価をすることができる。つまり、評価規準をより明確にしていくことが必要である。